

本単元で育む主な情報活用能力

B-STEP 2, H-STEP 2
H-STEP 4, N-STEP 3

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力（ステップシートの項目）

（教科等でつきたい力）

- ・情報を収集する複数の方法を知り、辞書や Web 検索する。
- ・アルファベット順を正確につかむ。

（学校図書館等の活用でつきたい力）

- ・疑問が浮かんだ時に、本や辞典を使って解決する。
- ・一語一義を調べ解決するだけでなく、本ならではの偶発的・補助的な情報を役立てる。

単元における学習の展開（全8時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第1次 (全5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で自己紹介ができるようになるために、自身の好きなこと(like)、できること (can) などの表現技法を学ぶ ・疑問文を用い、知りたいことを相手に尋ねる ・辞典の種類、辞書と Web 検索のよいところについて知る ・辞典の構成、早く引くコツを考える（見出し語、アルファベット順を早く思い出す練習等）
第2次 (全3時間)	<p>○「好き」を集めたオリジナル辞典を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り 辞書引きレース（発音、品詞、意味、例文、参考となる情報）（☆） 和英、英和辞典を活用しオリジナル英語辞典の作成（調べた単語をアルファベット順に整理し、見出し語をつける）（☆）（本時） 辞典のように調べた単語をアルファベット順に整理し、見出し語をつける（出典の記入）

本時のねらい

小学校で使用してきた国語辞典と同じ要領で英語の辞典を使い、自分の好きな言葉を集めたオリジナル英語辞典を作成する。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (10分)	<p>1. 前時の振り返り・本時のめあて確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した辞典の仕組みや早く引くコツを思い出す。 ・アルファベット順を早く思い出せるようペアで練習する。 ・オリジナル英語辞典作成の手順を聞く。 ・評価の判断基準を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和英辞典と英和辞典を全員に配付 ・英英辞典や収録語数の多い辞典は教卓に準備
展開 (35分)	<p>2. オリジナル英語辞典に載せたい言葉のリスト化・情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな色、食べ物、動物、趣味、特技などのブレーストーミングを行い、日本語で記録する。（10個） ・辞典を使い、それぞれの単語を英語にする。 ・調べた単語をアルファベット順に並べ、清書用紙に記入する。 ・発音や例文または参考情報も記録しておく。 ・辞典のように見出しとなる文字を用紙に記入する。 ・使用した辞典名（出版社・出版年）を併記する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたい単語の英語が分からなければ和英辞典を活用させ、和英辞典で情報（発音や例文）が不足している場合は英和辞典を活用させる。発展的な学習として、英英辞典や収録語数の多い辞典を使ってもよいことを伝える。 ・調べる際、ページ数をメモしたり、付箋を使ったりしてあとから見直せるようにさせる。
まとめ (5分)	<p>3. 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ方の工夫について交流し、次回の完成につなげる。 ・タブレットでの単語検索との違いについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞典の回収 ・廊下に辞典や生徒作品を掲示

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

小学校で国語辞典等の使い方は学習済みであることから、生徒は負担感なく英語辞典を使おうとしていた。辞書引きレースではこれまでに学習してきたアルファベット順が活かせる場面でもあることから、早引きのコツも参考に、熱心に取り組む姿があった。

オリジナル英語辞典の作成では、自分の好きなもののリスト構想に時間がかかった為、ペアや小グループを活用し、ブレーストーミングを促進するなどの工夫が必要である。今回は、中学校に入学したての授業での取り組みであったが、今後の探究学習につなげられるよう、自己決定できるテーマ・情報のピースづくり・工夫した調べ方・出典の書き方等を取り上げた。



熱心に辞書引きレースに取り組む様子